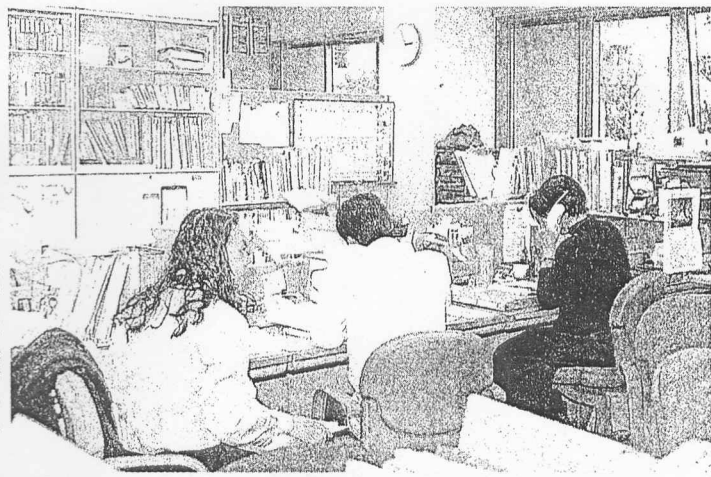


AMDAの国際医療情報センター

「病気になるたが日本語をうまく話せず、医者に説明できない」「この病院に行きたいのか」。岡山市に本部のあるアジア医師連絡協議会（AMDA）

「病気になるたが日本語をうまく話せず、医者に説明できない」「この病院に行きたいのか」。岡山市に本部のあるアジア医師連絡協議会（AMDA）

「病気になるたが日本語をうまく話せず、医者に説明できない」「この病院に行きたいのか」。岡山市に本部のあるアジア医師連絡協議会（AMDA）



日本生活する外国人に医療情報を提供している、東京のAMDA国際医療情報センター

る。

都内ビルの一室に入居する東京のセンター。プラジル人から「風邪をひいた。近い病院を紹介してくれ」

「病気になるたが日本語をうまく話せず、医者に説明できない」「この病院に行きたいのか」。岡山市に本部のあるアジア医師連絡協議会（AMDA）

電話で病院を紹介

東京8カ国語 大阪4カ国OK 年々増える相談

と電話がかかってきたとすると、ポルトガル語の話を相談員が病状などを聞き

に不案内な人には交通手段を伝えることもある。相談内容は「言葉の通じ

的は医療情報を提供することにある」と青木事務局長。

期間は経なければ相談員になれない」と青木事務局長。

安心して医療を受けたいという要望はまだある」とみている。

る医療機関の紹介」「保険料」「エイズ」などの相談を受けること

受付けは電話相談のみだ。相談者のプライバシーを守り、不特定多数

AMDAが国際医療情報センターを東京に設けたのは平成三年四月。五

AMDA国際医療情報センターの受け付け、問い合わせは次の通り。

ままだ。日本での生活に

ため、相談員の名前は明かさないことにしている

をする救急通訳サービスなども行っている。同年

東京11電03・5285・8088（月曜から

なじめない人

談は受け付けていないこと

相談件数（都からの委託分を除く）は、東京の

大阪11電06・6362・2333（月曜から金曜の午前九時

センターが

定されたり、相談員の顔や名前が分かることがな

千件を突破、九年度は約四千件に達した。大阪の

時、救急通訳サービス午後五時、救急通訳サービス午後五時、土日祝

療機関や薬局が外国人

に

センターも毎年度、千件

時）

テキスト

であるため、微妙な病状

センターも毎年度、千件

時）

テキスト

であるため、微妙な病状

センターも毎年度、千件

時）

テキスト

であるため、微妙な病状

センターも毎年度、千件

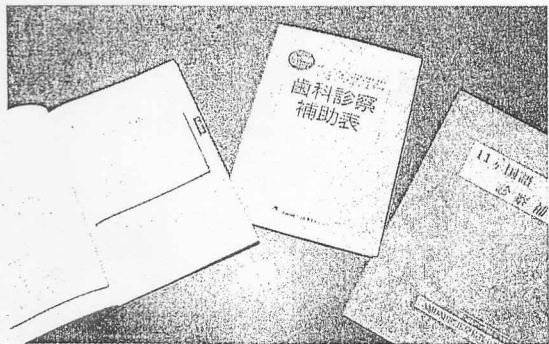
時）

テキスト

であるため、微妙な病状

センターも毎年度、千件

時）



から、悩みごと相談を持ち掛けられることもある。相談のポイントは相手の名前を聞かないこと。不法在留者もいるよう登録された全国四百三十の医療機関の中から、適当なものを複数選び出す。地理スもあるが、私たちの目の

前後の相談が寄せられている。センターは電話相談のほか、医療機関や薬局が外国人に対応できるように、診察時の言葉を補助する十一カ国語のテキストや九カ国語の服薬指導本、十六カ国語の歯科診療補助表をつくった。また、シンポジウムやセミナーで医療機関に協力と呼び掛けている。

青木事務局長は「センターの存在が口コミや、各自治体の国際交流センターなどを通じて知られるようになるにしがたが、相談数も増えてきた。安心して医療を受けたいという要望はまだある」とみている。

AMDA国際医療情報センターの受け付け、問い合わせは次の通り。

東京11電03・5285・8088（月曜から金曜の午前九時午後八時、救急通訳サービス午後五時、救急通訳サービス午後五時、土日祝日は救急通訳サービスのみ午前九時午後十時）

大阪11電06・6362・2333（月曜から金曜の午前九時午後五時）